

女子野球ワールドカップ優勝メンバー

久保夏葵さん  
なつき  
市役所を  
表敬訪問



告しました。

6年7月28日から8月4日までカナダのサンダーベイで開かれた第9回WBSC女子野球ワールドカップに投手として出場し、日本代表チームの7連覇に貢献した久保夏葵さん。北村出身が12月25日、市役所を訪れ佐々木市長に大会結果を報

告しました。大会では全6試合のうち3試合に登板した久保さん。準決勝のメキシコ戦では先発投手として4回を1安打無失点に抑えるなど、チームの躍進を強力に支えました。

久保さんは「代表メンバーに選ばれたときは驚きましたが、自分の持てる力を100%出せるよう準備して臨みました。7連覇がかかっていてプレッシャーはありましたが、チーム全員で優勝できてうれしかったです」と仲間と掴んだ勝利を振り返りました。

市長は「本市出身で、世界で



© WBFJ

直前強化合宿で投球練習を行う久保さん(7月22~25日、神奈川県秦野市)



市役所を表敬訪問し、佐々木市長に優勝の喜びを報告した久保さん

活躍した久保さんは、市の誇りでありヒーローです」とたたえるとともに「今後もしっかり張ってください。応援しています」と激励しました。

西根中を卒業した後、女子硬式野球部がある高知県立室戸高校へ進学した久保さん。その後、女子プロ野球や社会人野球での活躍を経て、令和3年に現在所属する平成国際大学(埼玉県)に入学すると、大学野球では昨年日本一に輝くなど活躍を続け、今回、日本代表に初招集されました。

大学卒業後は、企業チームに所属し野球を続ける予定の久保さん。「可能であれば、次回大会も選手に選ばれたい。1年1年が勝負だと思っているのでも、自分のできることをやっていきたい」と将来を見据え、たゆまぬ努力を誓いました。

地域に受け継がれてきた漆産業の保護と振興への貢献が認められ

文化庁長官表彰を受賞



安代漆工技術研究センター主任技師

ふみたか  
富士原文隆さん

長

年にわたり、日本産漆の生産・精製に従事

するとともに、伝統的な漆芸技術の指導講師として後進の育成にも努め、国内の文化財保護へ多大な貢献をしたとして、本市職員の富士原文隆さん。畑区が、文化庁から表彰を受けました。

もともと木地師になるため、安比川上流域で最後の木地師と言われている故・藤村金作さんの元で修行していた富士原さん。旧安代町が旧安代漆器センター(現・市安代漆工技術研究センター)を開所する際に声を掛けられ、

漆の世界に飛び込みました。入庁後は漆塗り技術の研さんを積み重ねながら、地場産業の振興に力を尽くすとともに、昭和58年から現在まで40年間、センターで漆の技術を伝え、塗師を世に送り出しています。

富士原さんは「巣立った研修生が、全国各地でも活躍できるよう、技術を伝えていく」と決意を新たにしました。



研修生に指導する富士原さん